

I 第23週の発生動向 (2014/6/2~6/8)

1. インフルエンザについては、患者報告数は2人で、迅速診断キットによる型別はB型2人でした。
2. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の246人から216人に減少しました。
3. 水痘については、むつ保健所管内で注意報が解除されました。

II 第23週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上 十 三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ					2	0.1							2	0.0	-7				
(74) RSウイルス感染症			2	0.2									2	0.1	0				
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	2	0.2	4	0.4	2	0.4	2	0.3			11	0.3	4			1	0.1
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.4	8	0.9	8	0.8			10	1.7	3	0.8	32	0.8	-15			3	0.4
(77) 感染性胃腸炎	52	6.5	17	1.9	53	5.3	13	2.6	24	4.0	57	14.3	216	5.1	-30			52	6.5
(78) 水痘	20	2.5	4	0.4	4	0.4	1	0.2	3	0.5	13	3.3	45	1.1	-28			20	2.5
(79) 手足口病			1	0.1									1	0.0	-1				
(80) 伝染性紅斑	5	0.6	10	1.1	4	0.4							19	0.5	0			5	0.6
(81) 突発性発しん	4	0.5	4	0.4	14	1.4	7	1.4	6	1.0	4	1.0	39	0.9	12			4	0.5
(82) 百日咳									1	0.2			1	0.0	1				
(83) ヘルパ ンギーナ			5	0.6					1	0.2			6	0.1	-4				
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.1	6	0.7	3	0.3							10	0.2	5			1	0.1
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	6	3.0			1	0.5			1	0.5			8	0.7	6			6	3.0
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎											3	3.0	3	0.5	-7				
(96) 無菌性髄膜炎							4	4.0					4	0.7	2				
(101) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)											12	12.0	12	2.0	-7				

は警報、 は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (10) 結核(二類全数把握疾患)：東地方+青森市2人、弘前4人、五所川原1人(2014年計:138人)
- (39) つつが虫病(四類全数把握疾患)：八戸1人、五所川原1人(2014年計:4人)
- (60) レジオネラ症(四類全数把握疾患)：八戸1人(2014年計:2人)
- (73) 侵襲性肺炎球菌感染症(五類全数把握疾患)：弘前1人(2014年計:5人)

IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

感染症の窓

伝染性紅斑 (五類定点把握疾患)

伝染性紅斑(両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれることもある。)は、ヒトパルボウイルスB19の感染による紅斑を主症状とする発疹性疾患であり、感染症法では五類定点把握疾患(小児科定点)に分類されています。しかし、学校保健安全法の伝染病の中では明確な規定はされておらず、「学校長が学校医と相談をして第3種学校伝染病としての扱いをすることがあり得る病気」と解釈されています。

潜伏期間は4~15日で、軽い風邪様症状から顔面、特に頬部に境界明瞭な平手で頬を打ったような紅斑が突然出現し、続いて四肢に対側性にレース様の紅斑が出現します。予後は通常良好ですが、溶血性貧血の患者では、汎血球減少を起こすことがあり、また、妊婦の場合には胎児水腫又は流産を起こすことがあります。

疫学的に5歳を好発年齢のピークとするパターンをとり、幼児、学童期に好発しますが、本県でも例年、概ね5歳をピークとする山型の分布を示しています(図1)。

年によって若干のパターンの違いはあるものの、年始から7月上旬頃にかけて症例数が増加し9月頃に最も少なくなる季節性を示しますが、流行が小さい年にははっきりとした季節性がみられないこともあります。本県では今年に入ってから定点当たり報告数が全国よりも上回った状況

で推移しており今後の動向に要注意です(図2)。紅斑の出た段階ではほとんど感染力はありませんが、感染経路は通常、飛沫感染または接触感染ですので、特に妊婦などは流行時期には人ごみを避け、手洗い励行などの対策が大切です。

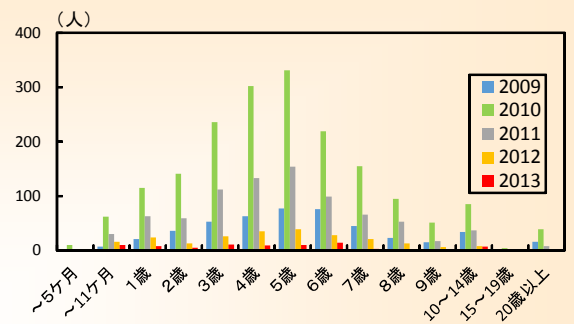


図1 過去5年間の県内における年齢別患者報告数

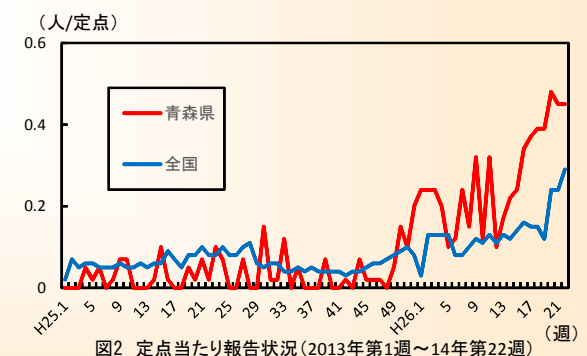


図2 定点当たり報告状況(2013年第1週~14年第22週)(週)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第7週～第23週）

週	期 間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
7	H26.2.10 ~ H26.2.16				急性脳炎1人		
8	H26.2.17 ~ H26.2.23	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人					
9	H26.2.24 ~ H26.3.2						
10	H26.3.3 ~ H26.3.9						
11	H26.3.10 ~ H26.3.16		急性脳炎1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	急性脳炎1人			
12	H26.3.17 ~ H26.3.23		アメーバ赤痢1人				
13	H26.3.24 ~ H26.3.30						
14	H26.3.31 ~ H26.4.6	アメーバ赤痢1人					
15	H26.4.7 ~ H26.4.13	侵襲性肺炎球菌感染症1人					
16	H26.4.14 ~ H26.4.20	急性脳炎1人	梅毒1人				
17	H26.4.21 ~ H26.4.27			A型肝炎1人			
18	H26.4.28 ~ H26.5.4			急性脳炎1人 梅毒1人			
19	H26.5.5 ~ H26.5.11			アメーバ赤痢1人		後天性免疫不全症候群1人	
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		つつが虫病1人	アメーバ赤痢1人			
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	侵襲性肺炎球菌感染症1人		梅毒1人			
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	つつが虫病1人	後天性免疫不全症候群1人	破傷風1人			
23	H26.6.2 ~ H26.6.8		侵襲性肺炎球菌感染症1人	つつが虫病1人 レジオネラ症1人	つつが虫病1人		

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第13週～第23週)

単位：人

週	期 間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
13	H26.3.24 ~ H26.3.30	1	1	5	1	2	
14	H26.3.31 ~ H26.4.6	2	1	4		1	
15	H26.4.7 ~ H26.4.13	1	2			1	
16	H26.4.14 ~ H26.4.20	2	4	2	2	1	1
17	H26.4.21 ~ H26.4.27	2	1	2	3		
18	H26.4.28 ~ H26.5.4	1		4			
19	H26.5.5 ~ H26.5.11	1					
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		1	2	1		
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	3	1	1	1	2	
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	1		1			1
23	H26.6.2 ~ H26.6.8	2	4		1		

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国 (2014年第1週～第21週累計)

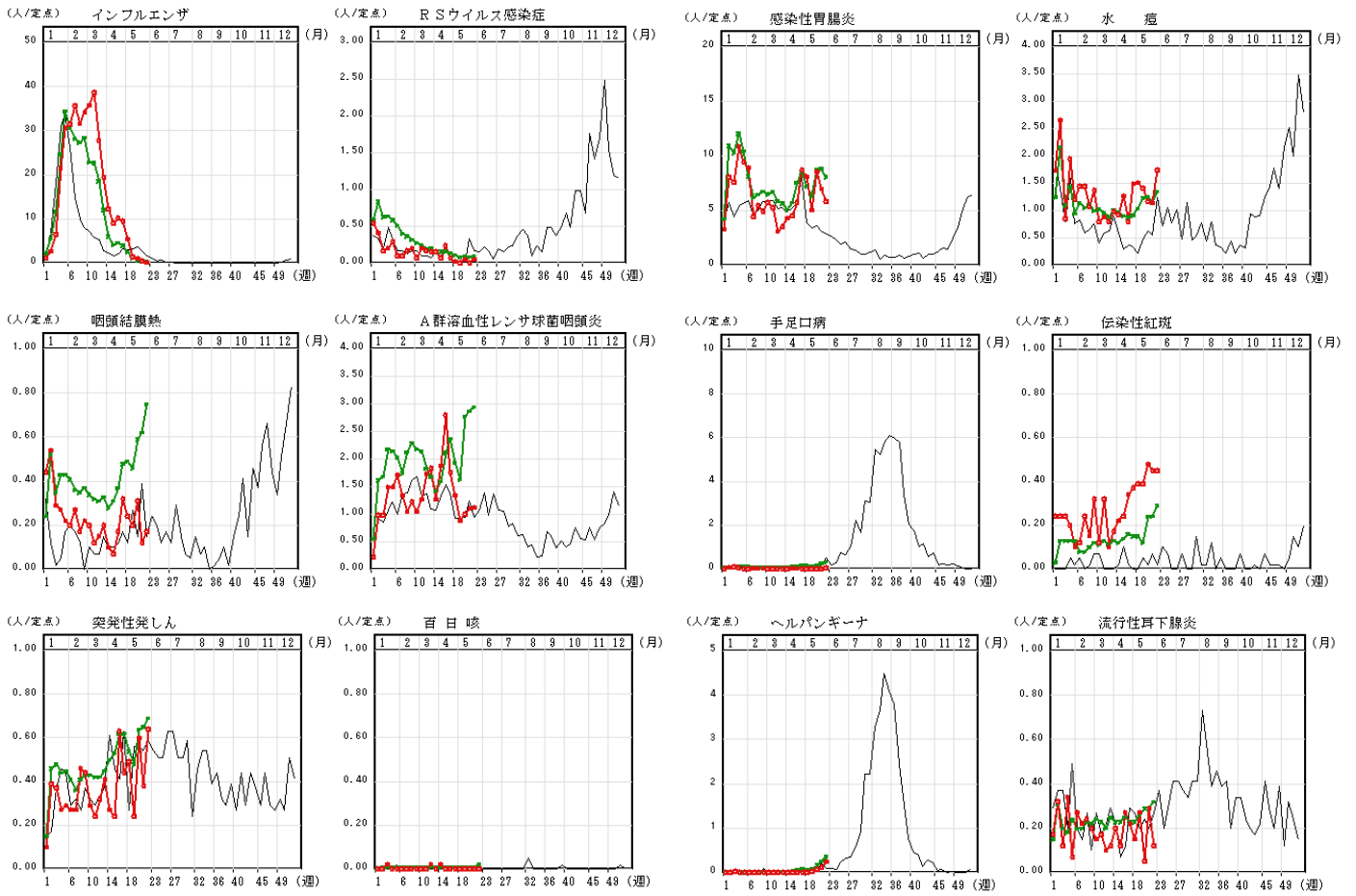
分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокス症	オウム病	Q熱	コクジオイテス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ポリオス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢
累積報告数	9203	42	396	17	6	58	340	4	6	1	1	11	4	56	65	30	4	1	25	354	6	415
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性ヘルペスウイルス感染症	侵襲性髄膜炎	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイン耐性球菌感染症	風しん	麻しん						
累積報告数	100	202	9	61	101	527	26	87	16	889	8	548	38	19	200	343						

青森県 (2014年第1週～6月9日16:30累計)

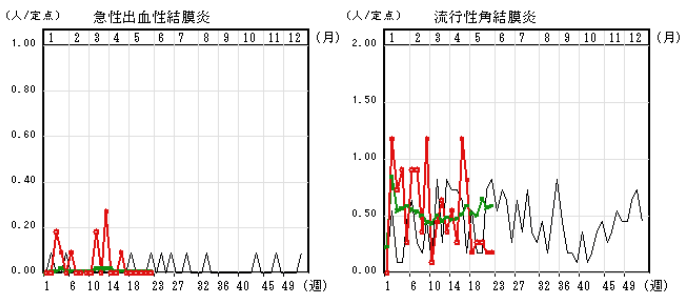
分類	二類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風
累積報告数	138	1	4	2	5	8	1	2	5	3	1

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第22週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、—は2013年青森県、×—×は2014年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第22週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第22週)

